

③2024年度 人間学部

PLAN(計画) →2024年4月までに		DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。		D:計画を実行しその効果を測定する。		C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う 評価 評価の理由/課題/根拠データ等		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる	
1. 募集① 定員充足率100%をめざす。定員充足に向けて学部全体で取り組む。長期的視野から学科の在り方を検討する。特に、児童発達学科、人間福祉学科の今後の戦略を学部全体の問題として検討していく。国際こともコース、福祉マネジメントコースのアピール方法を重点的に検討する。		入試方法の改善:9月総合型「オープンキャンパス参加型」を8月に4回実施。人間福祉学科における外国人留学生選抜の実施。OC改善: ①OCで「祝祭感」をもって盛り上げるために冒頭全員がアドリウムに集まり「OCの歩き方」を実施。各学科の学生もプレゼンを行うなど盛り上げた。②高校生には志望学部・学科シールを身に付けてもらい、教員やOC委員がかかわりやすくなった。③学科ガイダンスでは、学生のプレゼンを積極的に取り入れ、あこがれや親近感を醸成した。 広報の工夫:学生生活をリアルに伝えるためのパンフレット記事、動画など積極的に配信。		100%		学部充足数205/340名、定員充足率60.3%(49.3%) コニ社 2025年度なし(26名:43.3%) 児童 68名(49名37.7%) 福祉 47名(32名29.1%) 心理 90名(90名90.0%) * ()内は昨年度 対人援助職に対する社会的なイメージの悪化も影響し、前年度よりさらに入学者を減らすことになった。高校生の大学学部志望動向等も踏まえつつOC参加者からの受験につなげるべく努力を重ねたが、結果が出なかった。高大連携などに取り組む必要がある。	
1. 募集② 年内入試での学生獲得に向けて、OC、総合型選抜の方法、指定校入試などの見直しを図る。		学科ガイダンスのpptの工夫、ガイダンス時に学生も参加しインタビュアやプレゼンを実施。「学科紹介ツアー」に体験を組み込み充実。教員自身が魅力的に紹介。学科紹介の一部の場所で学生も参加し触れ合う。「総合型選抜のトリセツ」パンフレットの作成。OCにおける「ウェルカム感」や「賑わい感」を演出できるようオープニングの改善や体験等の充実を図った。		2024年度すべてのOCで実施。100%		学科ガイダンスは学生のゲストスピーカーを招くなど改善、効果があった。学科紹介ツアーは少ない人数でかわかることができ、話しやすかったと好評であった。募集に関して、入学数及び定員充足率の改善は早急の課題である。今後の学科運営、募集戦略の改善が望まれる。他大の募集戦略情報を収集する等比較分析が必要。	
2. 教学① 退学率3.5%をめざす。特に1,2年生の学生対応を丁寧に行う。		2023年度実績学部全体で4.2%。特に1年生5.3%、2年生6.5%と低学年での退学率が高かった。2024年度は、1年生1.5%、2年生8.1%、3年生2.5%、4年生2.4%。全体で4.4%であった。初年次教育の充実、クラスアドバイザー制度の質的向上、授業の欠席状況を早期に把握し、個別面談等を行いながら不登校に繋がりそうな学生の指導に努めた。		教務G学籍状況 学生対応:100% 効果:、		全入による学部学科への理解不足によりミスマッチが出ているのではないかと。退学理由の詳細を分析する必要がある。1,2年生の退学率上昇を防ぐために学科への理解促進や入学後の愛着形成に課題があると推測される。初年次教育の充実は糸口となるのではないかと。	
2. 教学② アセスメント指標、方法を検討する。		教学マネジメントの構築を実施。アセスメントを意識しCPの検討を行った。学習成果の可視化を検討した。アセスメント問題に取り組み、目的及び評価観点の整理を行った。学生のレポートなどを経年変化で捉える質的分析に取り組み始めた。各学科DP到達度評価のためのルーブリック(レベル0～レベル4)を作成。		DP到達度評価のためのルーブリック100% DP到達度チェック100% 履修カルテ100%		4年生最後のレポート(就職カルテ等)の記載内容はCP実現を捉える上で重要である。また、学生の自己評価が3年次に一旦下がるなどの様相を示すことが示唆される。DP到達度チェック、履修カルテによるアセスメントの実施自体は定着。	
2. 教学③ 免許・資格養成課程をもつ学科は、確実に取得に結びつくよう履修指導を徹底する。児童発達学科では1%増、人間福祉学科では国家試験合格者を1%増をめざす。		人間福祉学科の国家試験対策講座について、講師と専任教員が連携をとりながら学生の意欲持続、合格へ向けた対策などを行う。 児童発達学科免許・資格取得についての不安やコロナ禍の影響を受けた学生たちであるため、実習時期、実習内容の変更に対して個別に丁寧に対応していく。		100%		<人間福祉学科の国家試験合格率> 社会福祉士:63.8%(全国平均58.1%) 精神保健福祉士:83.3%(全国平均70.4%) 介護福祉士:100%(全国平均82.8%) いずれも<児童発達学科免許・資格取得者数及び取得率> 保育士資格取得者数:77/89(86.5%) 幼稚園免許取得者数:97/110(88.0%) 小学校免許取得者数:34/39(87.0%)	

③2025年度 人間学部

PLAN(計画) →2025年4月までに	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	
1. 募集① 年内入試にて募集定員の80%確保を図る。定員充足に向けて学部全体で取り組む。長期的視野から学科の在り方を検討する。特に、児童発達学科、人間福祉学科の今後の戦略を学部全体の問題として検討していく。「テーマ学習型」の展開。総合型入試に「基礎学力型」を導入実施。OCに1コマ40分程度の体験企画を導入。高校生へのアプローチを積極的に行いたい。指定校推薦枠からの志願者増を図る。	
1. 募集② 年内入試での学生獲得に向けて、OC、総合型選抜の方法、指定校入試などの見直しを図る。来場者数の増加、リビート率の増加、出願率の増加を図る。出願率アップのための出願促進企画の実施。9月総合型選抜対策講座の説明、ミニレポート対策。テーマ学習型説明動画の作成。マンツーマン指導の充実。来場者数増加・リビート率アップのための体験企画を実施。卒業生企画の実施。	
2. 教学① 退学率3.5%をめざす。特に1,2年生の学生対応を丁寧に行う。	
2. 教学② 免許・資格養成課程をもつ学科は、確実に取得に結びつくよう履修指導を徹底する。児童発達学科では1%増、人間福祉学科では国家試験合格者を1%増をめざす。	
人間福祉学科の合格率はいずれも全国平均を上回った。児童発達学科では、免許・資格取得を辞退する学生が出てきている。取得のための学修と別々の進路への準備を両立することが難しい学生が出てきており、それが辞退につながっている。学生の多様化により、希望する免許・資格も多様になってきている。学生個々の満足度をあげることも退学率減少に関係すると考えられる。キャリアとも連携しながら対応していきたい。	

3. 国際化 留学プログラムの実施、参加者増(コミ社は独自プログラムの実施、他は各5名増)に向けて準備を進める。	海外短期FW 心理学科(カナダTRU8名)+人間福祉学科(0名)および、児童発達学科(アメリカ9名)のプログラムを実施。 児童発達学科:カプリオカレッジから2名の留学生受け入れ。ふじみ野幼稚園、保育実践研究センターにて実習。風の里保育園・子どもの森への見学。学科学生の協力により東京見学を22回実施。7月にカプリオ大学留学生と国際こどもコース学生との授業内交流を実施。	100%	実施するための方路を検討し、学生参加も募った。一方で、コロナ禍以降の内向き志向、円安による価格高騰などから参加者は少数となった。コミ社のプログラムは実施できなかった。	国際交流委員会 議事録 教授会議事録 留学報告会	参加者の報告会などでアピールし、次年度の参加者を増やしていく。これまでと同様の短期留学プログラムの実施。今後の課題として、心理学科+人間福祉学科コースと児童発達学科コースの再編や留学の在り方を検討していく必要がある。2025年7月Prof.Michelleを講師として招聘し留学に対する動機づけを行う。留学プログラムへの参加意識を高めるために、海外短期フィールドワークに参加した3年生にFWでの経験や学びについて説明および報告の機会を設けることにより、留学に対する動機づけを行う必要がある。	3. 国際化 留学プログラムの実施。参加者増に向けて準備を進める。留学プログラムへの参加意識を高めるために海外短期フィールドワークに参加した3年生にFWでの経験や学びについて説明および報告の機会を設ける。留学に対する動機づけを行う。
4. キャリア 就職率:児童発達学科、心理学科で前年度並みをめざす。また、コミュニケーション社会学科、人間福祉学科で1%増をめざす。前年度の方法をさらに充実させる。キャリアセンターと教員が連携し、学生状況を把握しつつ指導を進める。	2025年2月28日現在内定状況 本郷キャリアセンター コミュニケーション社会学科(本郷)93.3% 人間福祉学科福祉マネジメント(本郷)83.3% ふじみ野キャリアセンター 人間福祉学科ソーシャルワーク(ふじみ野)87.7% 児童発達学科(ふじみ野)90.1% 心理学科(ふじみ野)90.4%	昨年度と比較し、 就職率は減へ。	2024年5月現在 就職内定率 コミュニケーション社会学科:97.1%(前年度同時期100%) 人間福祉学科SW:95.4%(同96.6%) 人間福祉学科福祉M:94.1%(同92.6%) 児童発達学科:98.9%(同100%) 心理学科:96.0%(同97.7%) 上記の値と比較との比較は5月末日まで待つことにする。 専門職就職率は好調である。	キャリア委員会 議事録 キャリア戦略会議事録 教授会議事録	国家試験合格率人間福祉学科()内は昨年度。 精神保健福祉士90.0%(83.3%) 社会福祉士82.8%(63.8%) 介護福祉士100%(100%) 児童発達学科専門職就職率90.2% 心理学科専門職就職先「児童養護施設」1名 心理学科大学院進学者8名 *人間福祉学科:国家試験合格率の維持 *児童発達学科:専門職就職率の維持 *心理学科:公認心理師への誘い 専門職就職率の維持、向上。児童発達学科及び人間福祉学科については、一般職就職について対応の早期化を図る必要性。児童発達学科国際こどもコース学生への就職支援活動について検討要。	4. キャリア 就職率:児童発達学科、心理学科で前年度並みをめざす。また、コミュニケーション社会学科、人間福祉学科で1%増をめざす。前年度の方法をさらに充実させる。キャリアセンターと教員が連携し、学生状況を把握しつつ指導を進める。
5. 研究 科研費申請数、学内共同研究費、学長裁量経費の獲得本数を前年度並みとする。	研究・紀要論文の規定改定 リポジットリ化(オープンアクセス化) 査読方針見直し 投稿力カテゴリー確認(オープンアクセスに対応可能な負担保)・科研費2024年度 新規採択2件、合計6件(代表課題分)が研究継続中。共同研究費採択7件、学長裁量経費4件。	100%	前年度実績 科研費代表11件、分担13件採択/継続中 学内共同研究費5件採択 学長裁量経費3件採択 2024年度との比較と評価 科研費代表は昨年度と比較し数的に減であるが、継続研究的研究のため。 学内共同研究費及び学長裁量経費数は増となった。 研究活動と教育活動の両立は図られていること、また共同研究や学長裁量経費への申請状況は教育改革に積極的に取り組もうとする姿勢である。	総合研究所委員会 議事録 教授会議事録	積極的な申請を促していく。特に若手の研究活動を支援したい。 研究課題に対し、事前申請、事前承認を得てから実施することが原則となる。 総合研究所紀要(査読なし)のリポジット化を凍結。方策の検討要。 共同研究費採用の新基準設定。 研究活動の推進を図る必要性。	5. 研究 科研費申請数、学内共同研究費、学長裁量経費の獲得本数を前年度並みとする。
						6. 学生生活 大学生生活の満足度向上に努める。学生自治会・あやめ祭実行委員会・SLF等の学生組織の再編を行う。新入生特別研修の検討。クラスアドバイザー面談の実施。クラブ・サークル活動の活性化。コーディネーター学生の育成及びボランティア支援。
						7. 社会連携(地域連携改め) 人間学部では4センターの活動の充実。各センターの特性を改めて解析しプログラムの見直しを図る。保育実践研究センター(ふらっと文京):学生への実習・学修環境の提供。子育て支援活動の充実。OCに協力。研究センターとしての充実を図る。地域連携センターBICS:活動の継続及び充実と共に、社会貢献実習との連携を図る。まちらぼ:近隣商店街における子どもの居場所づくり活動を継続。市内イベントへの参加を継続。学内における交流活動の認知度向上、広報に努める。活動学生の増加を図る。 学生中心の教育および学修成果の可視化に結び付けるため、学生の声を聴き学生参画を促す。学生による授業アンケートのみならず、クラブ・サークル代表者会議およびSLF委員会の合併案と共に学生と教員及び職員との協働体制を強化していく。このようなシステムを導入し運用面に活かす配慮をしていく。